



—第 18 号—

## 地域・だいがく連携通信

### —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室  
〒 657-8501  
神戸市灘区六甲台町 1-1  
TEL : 078-803-5391  
FAX : 078-803-5389  
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

## 神戸大学・神戸市 連携推進協議会を開催

平成 28 年 2 月 5 日 (金)、「神戸大学・神戸市連携推進協議会」を神戸市役所で開催しました。本学と神戸市は、平成 25 年 5 月 24 日に包括的連携協定を締結し、様々な事業を行ってきました。今回、連携事業全体を振り返る初めての機会となりました。

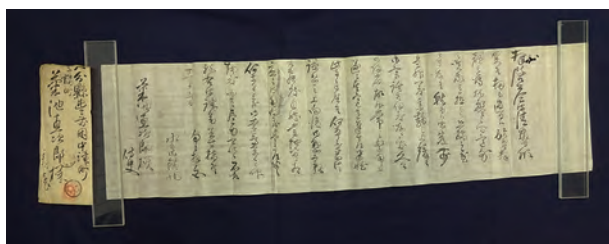
協議会は、神戸市の大谷幸正企画調整局長と、本学の内田一徳理事の挨拶から始まり、続いて、奥村弘地域連携推進室長から趣旨説明がありました。

その後、連携協定締結にあたってシンボルの事業として定めた 7 つの事業 (①大学のある街連携事業、②神戸クラスターに関する連携 (神戸医療産業都市の推進)、③障害児支援に関する連携、④安全な都市づくりに関する連携、⑤革新的膜工学研究に関する連携、⑥歴史文化に関する連携、⑦神戸市海外事務所の活用) について、大学の教員や神戸市の関係者からこれまでの取組や今後の展望について報告がありました。さらに、平成 27 年度に新しく立ち上がった「スマートシティ・タスクフォース」事業について、活動実績と来年度の計画について説明がありました。このほかにも大学と神戸市との間では海洋人材育成の面などで大型の連携事業が展開されています。今後も、こうした協議会を通じて情報の共有を図るとともに、連携の実質化を目指していきたいとの意見がありました。



## 初代校長水島鍊也先生 生誕の地 大分県中津市を訪問

大分県中津市は、本学の前身である神戸高等商業学校の初代校長である水島鍊也先生の出身の地であり、神戸大学にとってゆかりのある地です。平成 26 年度に中津市で開催された水島先生生誕 150 年記念講演会を機に、同市との交流がはじまり、平成 27 年 7 月には中津市監修で水島先生のマンガ本が作製されるなど、関係が築かれつつあります。本学では世界に開かれた視野を持ち、人間性豊かな水島先生の基本姿勢を共有するため、今後両者で連携協定の締結する予定です。



水島先生直筆の手紙

それに先立ち、平成 27 年中津市監修の水島先生のマンガ本  
年 10 月 30 日、本学の内田一徳理事と奥村弘地域連携推進室長、野邑 理栄子附属図書館大学文書史料室長補佐が、大分県中津市役所を訪問し、中津市との連携協定に向けての打ち合わせを行いました。

その後、耶馬溪風物館を訪れ、新たに発見された水島先生の直筆の手紙に出会うことができました。

## 学生地域アクションプランより

### 神戸在宅呼吸ケア地域連携 MAP の活用効果検証

平成27年度学生地域アクションプランに採択された神戸在宅呼吸ケア勉強会代表（学生）の藤本由香里さんに、お話をお伺いしました。

**―神戸在宅呼吸ケア勉強会はどのような活動か、概要をお教えてください。**

高齢化社会をむかえ、地域には、多くの呼吸器疾患の患者さんがいらっしゃいます。高齢者の場合、慢性呼吸器疾患を抱え長期間の治療を必要とする方が多いですが、入院期間が短縮された現状では、在宅でのケアが必要とされています。しかし、病院と地域の医療体制の連携不足や在宅医療の知識・技術・マンパワー不足により、十分な呼吸ケアが受けられない患者さんや自宅に戻ることができない高齢者が多くいらっしゃいます。

神戸在宅呼吸ケア勉強会は、平成24年12月に兵庫県内での在宅呼吸ケアネットワークをおよび呼吸ケアスキルの底上げを図ることを目的に発足しました。急性期から退院後在宅で過ごされる方々に切れ目ない呼吸ケアを提供していくためです。私は、その中で勉強会担当の世話人をし、大学と地域の訪問看護ステーション等施設をつなぐ役割を行っています。

**―どのような方々が勉強会に参加されていますか。**

勉強会受講者としては、訪問看護ステーションのスタッフ等実際に地域でケアに携わっている方々を対象としています。学生も、運営の手伝いをしながら参加しています。勉強会は、1年間12回のコースで、座学や実技などを通して呼吸ケアの基礎から学んでいきます。また、3か月に一度程度、参加対象を広げた研修会を開いています。勉強会の参加希望者は多く、1施設2人までの参加をお願いしているほどです。

**―学生地域アクションプランに応募された内容は、どのようなものでしょうか。**

以前「神戸在宅呼吸ケア地域連携 MAP」を作成しました。これは、訪問看護ステーションの中で、呼吸ケアへの対応が可能かどうかや指導者の人数などを地域ごとに掲載したものです。掲載は、同意をいただいた施設だけです。

呼吸器疾患は、症状が増悪と寛解を繰り返し、一度退院できても再入院する場合がありますが、呼吸ケアを適切に行うことでご自宅でご過ごせる期間が延長します。しかし、呼吸ケアの必要性の認知度は、

まだまだ低く、知識も不足しています。また、勉強会の中で、各訪問看護ステーションで可能なケアの詳細が分からない、ケアマネージャーさんがどこに紹介したらよいか分からないといった声も

多く聞かれました。そこで、呼吸ケアに特化したMAPを地域に配布することにしたのです。今回の応募では、これらのMAPについての効果を検証したり、見やすさなどの意見をお聞きしようと医療従事者の方々を対象にアンケート調査を行うものでした。

**―結果はどのようなものでしたか。**

予算や準備の関係から、勉強会に参加して下さる方にMAPを配布しアンケートをさせていただきとどまりましたが、使いやすさやレイアウト、情報量など好評でした。内容については、まだ改善点があることがわかりました。また、呼吸ケアに消極的な訪問看護ステーションが多いという問題点も明らかになりました。一方で、呼吸ケアの必要性を認識し、今後精通するスタッフを増やし訪問看護ステーションで提供できるケアの一つとして導入していきたいという前向きな意見も多く見られました。

**―MAPのほかに、パンフレットを作られているとのことですが。**

別の財団の支援を受けて、患者さん向けの『自宅でできる！呼吸リハビリテーション』と医療従事者向けの『在宅COPDケアポケットマニュアル』のパンフレットを作成し、訪問看護ステーションなどの各施設にお配りしました。これは、兵庫県内の訪問看護ステーションを対象にアンケートをとった中で、こういう所を知りたいといった意見をもとに作成しました。評判はよく、欲しいという施設も多く、増刷をしたいと考えるほどです。

**―学生の立場でこのような活動にかかわられてどのようなメリットがありましたか。**

勉強会の運営やMAP作成に伴うアンケート調査から実際に地域で働いておられる方のご意見を直接伺う事ができ、学内では学ぶことのできない地域の課題や問題に対しての生の声を聞くことができました。

また、勉強会の運営やパンフレットやMAP作成の企画・作成の開始当初から携わり、多くの方からご助言をいただいて、運営の難しさや企画の進め方などを学ぶことができました。

**―ありがとうございました。**





## 各研究科地域連携センターの取組み

神戸大学の各研究科地域連携センターによる今年度の連携活動の総括をご報告いたします。

### 第10回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム

平成28年1月23日(土)、篠山市丹南健康福祉センターで第10回篠山市・神戸大学地域連携フォーラムが開催されました。プログラムの前半は、保健学・人文学・農学研究科地域連携センターが行っている篠山市との連携事業の報告や、人間発達科学研究科 丑丸敦史教授による講演がありました。後半は「実践農学入門」や「実践農学」、「ESD論」等の実習の一環で、定期的に篠山市で活動した大学1・3年生や、篠山で活動する学生団体によるポスター発表がありました。今年度の実践農学入門では、実習として初めてヤマノイモの栽培を行い、ポスター発表ではヤマノイモを使った地域活性のアイデアなどの発表がありました。当日は、大学の教職員や、学生、実習の受け入れを担当した地域の方々など約130名の方が参加し、意義深い交流の場となりました。



### 第14回歴史文化をめぐる地域連携協議会

「地域で歴史を学びあうことのおもしろさ」というテーマで、平成28年1月31日(日)に瀧川記念学術交流会館で開催されました。当日の参加者は115名55機関にのぼり、当日の様子は平成28年2月1日付の神戸新聞にも掲載されました。今年、14年間にわたるセンターの活動を振り返り、その活動の継続性の根拠である「おもしろさ」の中身について、民・官・学それぞれから報告者を出し、議論を行いました。第一部では直近の活動が報告されるとともに、第二部のシンポジウムでは上述テーマに関する報告や活発な討論が行われました。専門や所属が異なる分野による地域連携の活動と、それを支える現場の取り組み等について、参加者から高い評価を得ました。また本協議会は、歴史文化関係者の交流を深める場としても位置づけており、「交流コーナー」での成果の発表やパネル展示などを行うなど、相互の親睦を深めました。



### 第11回保健学研究科地域連携センター報告会



平成28年2月6日(土)、保健学研究科地域連携センター報告会がラッセルホールで開催されました。同センターが行っている事業のうち、今回は、「子育て支援」、「高齢化対策」、「障がい者支援」をそれぞれテーマにした9つの事業の報告がありました。

「子育て支援」に関する事業では、ハンディキャップを持つお子さんや保護者の方への支援活動を中心に、活動に関わるボランティアや産後女性のマイナートラブルなど多様な視点からの活動報告がありました。「高齢化対策」に関する事業では、超高齢社会を迎えて逃れることのできない認知症の問題や、地域での健康促進の活動についての発表がありました。「障がい者支援」に関する事業では、企業と連携した障がい者の生活を支援する機器の開発の報告や、障がい者福祉施設との連携活動の報告がありました。当日は、自治体担当者やマスコミを含む約50名が参加し、活発な議論が繰り広げられました。

## 「ひょうご神戸プラットフォームCOC + 第1回シンポジウム」を開催しました

神戸大学が代表校として申請した「地域創生に  
 応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」  
 事業が平成27年度文部科学省の「地（知）の拠点  
 大学による地方創生推進事業（COC+）」に選定さ  
 れました。その始動に向け、平成28年1月28日（木）  
 に「ひょうご神戸プラットフォームCOC + 第1  
 回シンポジウム」が神戸大学瀧川記念学術交流会  
 館で開催されました。第一部では、平成27年度に  
 採択した地域連携の学内公募事業の取組発表があ  
 りました。第二部ではCOC+事業の協働機関で  
 ある兵庫県、神戸市、兵庫県立大学、神戸市看護大学の各取組の報告しました。その後の意見交換では、地  
 域の方々から本事業への期待や関心が寄せられる一方、学生から就職活動の際に、地元企業を知り得る機会  
 が少ないなどの発言があり、今後の事業推進にあたっての課題を共有することができました。



## 神戸大学 地域連携活動（2015年10月～2016年2月）

10月	17日	人文	人文学研究科連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第4回
	31日	工学	都市安全研究センターオープンセンター「みんなで考えよう安全・安心で快適なまちづくり」（神戸ハーバーランド）
11月	6日	保健	認知症予防のための年1回の無料定期検診～認知症と予防のお話～（保健学研究科地域連携センター）
	8日	保健	「認知症の診療と実際の対応について」（保健学研究科地域連携センター）
	21日	人文	人文学研究科連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第5回
	28日	大学	神戸大学・神戸新聞社連携シンポジウム「つなぐいかす 地域の力～みんながつながる子育て～」（松方ホール）
12月	12日	人文	人文学研究科連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第6回
	23日	人文	明石市立文化博物館企画展「明石藩の世界Ⅲ 藩主と藩士一」（～1/31）（人文学研究科地域連携センター）
1月	9日	農学	農学研究科地域連携研究セミナー（A-Launch）「ローカルから社会を変えるー中国から篠山、そして島根へー」
	9日	保健	「第7回 Cinema Cafe」（保健学研究科地域連携センター）
	28日	農学	第10回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム（篠山市）
	28日	大学	「ひょうご神戸プラットフォームCOC + 第1回シンポジウム」（瀧川記念学術交流会館）
	31日	人文	第14回歴史文化をめぐる地域連携協議会（瀧川記念学術交流会館）
2月	2日	人文	展示「多田御家人の家～Part2 多田雪霜談の世界～」（～28日）（猪名川町）
	6日	保健	第11回地域連携センター報告会（保健学研究科地域連携センター）
	14日	保健	第5回災害時の要援護者に対する支援セミナー～東北から神戸に～（保健学研究科地域連携センター）